

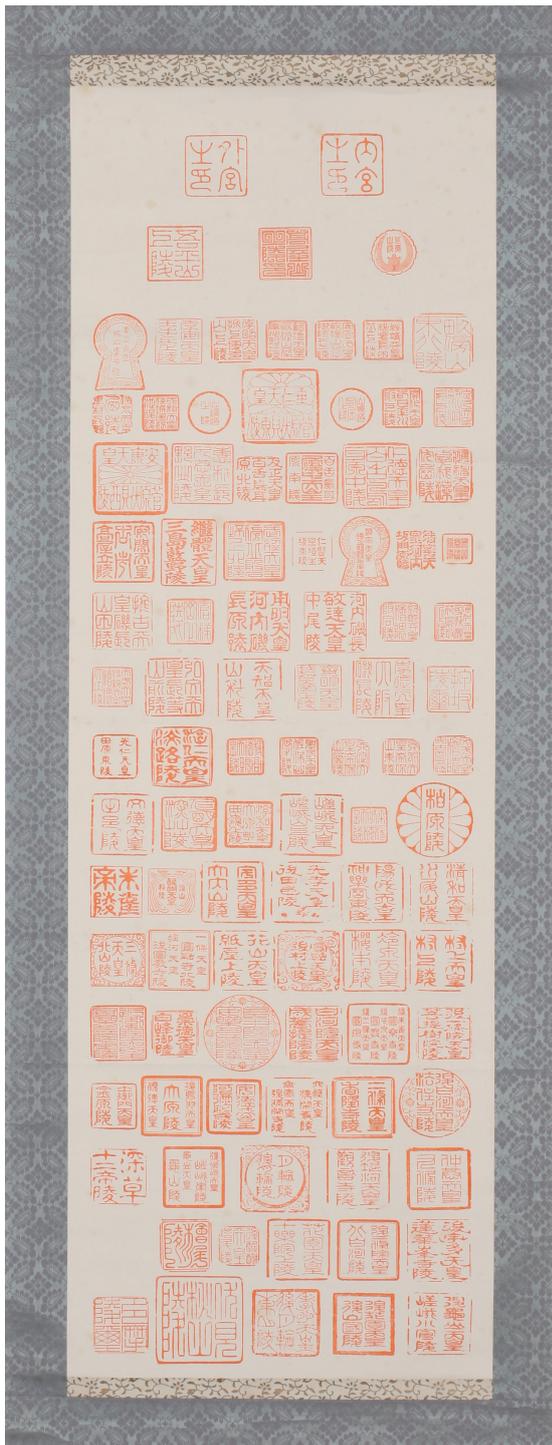
今月の

逸品

NO.40 2018.10~11



MUSEUM OF EDUCATION



神代續歴代皇陵譜

1938 (昭和 13) 年
 皇道精神顕揚會

本紙：490 mm × 1335 mm

伊勢神宮の内宮・外宮といわゆる「神代三代」、そして歴代天皇の陵の朱印(御陵印)を集成して鋪装した掛軸で、「皇紀二千六百年」——1940 (昭 15) 年が神話上の初代天皇・神武の「即位」から 2600 年の節目とされた——を記念し、皇道精神顕揚会によって作成された。「陵」とは、当時の定義で、天皇・太皇太后・皇太后・皇后の墓所のこと (1926 (大正 15) 年陵皇室陵墓令第 1 条。なお、現行の皇室典範でも同様)。本資料では、最上段に右から内宮・外宮の印、次段には「神代三代」、すなわち天照大神と神武をつなぐ天孫降臨以降の三代の神々 (彦火瓊瓊杵尊 <ヒコホノニギノミコト>・彦火火出見尊 <ヒコホホデミノミコト>・鷲草草不合尊 <ウガヤフキアエズノミコト>) の御陵印、そして神武より大正天皇に至る 123 代 (北朝の光厳から後円融までの 5 代は含めない) の天皇陵の御陵印が捺されている。しかし、内宮・外宮を除いて、本資料に捺されている御陵印は全部で 95 点に過ぎない。意外と少ないかもしれないが、その理由は二つある。その一つは 35 代皇極・37 代齊明、46 代孝謙・48 代称徳が重祚し、同一人であること、もう一つは、泉涌寺の月輪陵 (下から三段目中央) や、大学からすぐの深草十二帝陵 (下から三段目左端) など複数の天皇を合葬した陵があるからである。

<上から2段目>



鷲草草不合尊



彦火火出見尊



彦火瓊瓊杵尊

<下から3段目>



深草十二帝陵



月輪陵